

家畜衛生週報

ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3920 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2026. 9. 14

・家畜衛生レポート（神奈川県）……………	281
・電子指示書システム操作講習会（オンライン）開催のお知らせ……………	283
・動物用医薬品副作用報告（令和 8 年 7 月）……………	287

☆家畜衛生レポート（神奈川県より）

神奈川県湘南家畜保健衛生所

神奈川県では、「神奈川 D X 計画」を策定し、県民目線で D X を推進し、誰もが安心して暮らせるやさしい社会の実現を目指しています。

家畜保健衛生所では、スマートグラス（カメラ付き眼鏡型端末）とウェアラブルカメラの 2 機種の I o T 機器（通信カメラ）を活用して、リアルタイムに情報を共有することで、特定家畜伝染病の疑い事例が発生した際の迅速な初動体制の構築とまん延防止を目的に、令和 5 年度から民間企業（N T T 東日本）と連携し実証試験を開始しました。その後、機種選定や情報セキュリティ担当部署との協議を経て、令和 7 年度か

ら県内 2 ヶ所の家畜保健衛生所で運用を開始しました。

当所では口蹄疫を想定した立入演習を実施し、通信カメラの有用性と課題の検証を行いましたので、その概要を紹介させていただきます。

1) 検証に用いた通信カメラについて

検証には以下の通信カメラ 2 機種を用いました。両機種とも L T E 通信によるリアルタイムのビデオ通話機能、手振れ補正機能及び防水防塵機能を有しており、静止画及び動画の有効画素数は「口蹄疫・牛疫・牛肺疫に関する特定家畜伝染病防疫指針」で要求される画素数（80 万画素相当以上）に準拠しているなど、立入検査用カメラとして農場使用にも耐える製品仕様です（表 1）。

	スマートグラス (I n f o L i n k e r 3)	ウェアラブルカメラ (P o c k e t 2 P l u s)	デジタルカメラ (O M S Y S T E M T o u g h T G - 7)
通信機能	L T E 通信による 通話・映像配信	L T E 通信による 通話・映像配信	-
動画撮影	800 万画素	100 万画素	800 万画素
静止画撮影	1, 200 万画素	200 万画素	1, 200 万画素
手振れ補正機能	○	○	○
防水防塵機能	○	○	○

表 1 通信カメラ及び従来デジカメの機能比較



写真1 スマートグラス



写真2 ウェアラブルカメラ

2) 通信カメラの運用について

通信カメラとの映像共有および撮影データの確認は、家保等の業務用パソコンのwebブラウザアプリから行いました。情報共有の方法は2つのルートがあります(図1)。ルート①ではビデオ通話により農場と家保間でリアルタイムに双方向の情報共有が可能であり、ルート②は、撮影または録画データが順次クラウドへアップロードされ、家保等の業務用パソコンから任意のタイミングで確認が行えます。また、通信カメラが使用するLTE回線は県の情報セキュリティ回線を経由して接続されており、県セキュリティポリシーにも準拠した機器の接続構造となっています。

3) 農場演習での検証について

ビデオ通話によるリアルタイム映像配信時の通信品質は十分であるか、国との協議資料を想定して撮影した映像や写真の品質が防疫対応の判断材料となり得るか、また農場と家保間の情報共有について従来と比較して効率化されたかについて評価を行いました。

4) 検証で確認された課題と考察

通信カメラの接続状況はLTE回線の電波強度に依存するため、場所により通信状況の悪化が確認されました。通信カメラの安定運用のためには、通信状況の改善に向けて追加検証と解決策の提案が必要であると考えました。また協議用写真の品質については、耳標番号や唇粘膜面は十分に詳細が確認可能でしたが、蹄冠部の接写写真が不鮮明であり、協議用資料としては改善が必要でした。この要因として

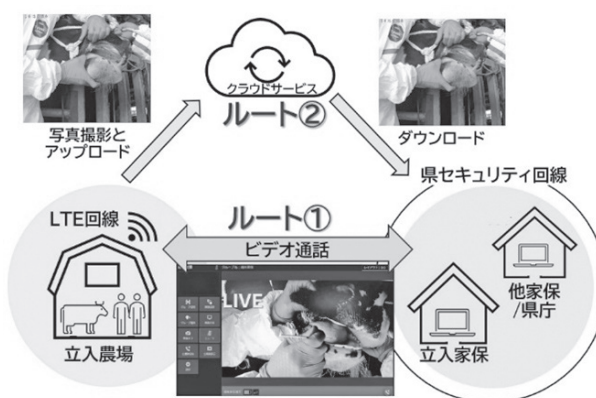


図1 通信カメラの運用

撮影者の安全確保ができない場合、十分に接近しての接写撮影が困難であったことが考えられました。さらに、通信カメラの操作について、操作者の慣れが要求されたため、操作マニュアルの整備や基本操作の訓練が必要であると考えられました。

5) 改善に向けた取り組み

通信の安定化に向け、販売事業者と反復検証を実施したところ、電波中継器の導入、カメラ画質と配信設定の見直しを行うことで改善の糸口が見つかりました。また蹄冠部の接写写真など、脚部の接写のためには、被写体の強固な保定やヘルメット等による安全対策をとることとしました。検証に用いた通信カメラは機種により機能や接続安定性が異なっており、スマートグラスは『遠隔デジカメ』として協議資料の記録用、ウェアラブルカメラは『テレビ電話』として農場内の状況報告用としての活用が適当であると考えられ、運用上の工夫を行うことで、協議に必要な資料写真の確実な共有が可能となりました。通信カメラ運用に関する一定の整理ができたため、

操作法および接続に関するマニュアルを整備し所内で共有し、併せて作成したマニュアル「FMD立入検査虎の巻」で、通信カメラの操作、接続や運用方法のほか、口蹄疫疑い発生時の立入検査のフローや畜主への聴取項目、検査材料の採材方法や撮影のポイントなど立入検査に関する基本事項を一冊にまとめ、定期的に内容の更新や研修を行うことで防疫業務の推進を図ることとしました。農場演習と併せたこれらの取り組みにより、口蹄疫に対する所員の意識や対応力も向上し、疑い事例通報時には全員が迅速かつ的確な初動対応ができる体制が強化されました。

おわりに

当所では、今後も幅広い通信カメラの活用に向け、特定家畜伝染病疑い事例発生時等の緊急立入以外にも、日々の業務用ツールとして積極的に活用していきたいと考えています。例えば、埋却候補地の現地確認調査では、土地の斜度や周辺状況など図面等の紙資料では読み取ることが困難な情報を担当間で映像共有することで、より実効性がある防疫計画の策定に結び付けたり、農場立入時の録画映像を経験の浅い所員の教育訓練用の教材として活用することで、聴取のポイントや感染状況確認の順序、作業における安全距離の把握など、家畜防疫員としての必須スキルを作業員目線で効率的に学習することを目指しています。IoT機器を活用した家畜防疫DXとして、今後も更なる活用を展開していきたいと考えています。

☆電子指示書システム操作講習会（オンライン） 開催のお知らせ

令和7年度より運用を開始しております電子指示書システムにつきまして、獣医師、生産農家、動物用医薬品販売店の皆様を対象としたオンライン操作講習会を開催いたします。参加費は無料です。電子指示書システムの導入・活用に向けて、ぜひこの機会にご参加ください。

実施概要

- ・電子指示書システムの概要

- ・アカウント取得/ログイン方法
- ・システム全般の基本的な使用方法
- ・集計機能など活用方法について

全日程共通タイムスケジュール

13:15 Teams会議（オンライン会議）開場

13:30 講習会開始

16:30 終了（質疑応答含む）

〈獣医師〉全7回

※各回すべて同じ内容ですので、
いずれかにご参加ください

①10/1(木),②10/7(水),③10/23(金),

④10/28(水),⑤11/18(水),⑥12/9(水),⑦2/10(水)

お申込みはこちら：<https://forms.cloud.microsoft/r/QRvdnacjdk>



〈生産農家〉全7回

※各回すべて同じ内容ですので、
いずれかにご参加ください

①9/30(水),②10/9(金),③10/14(水),

④10/21(水),⑤10/30(金),⑥11/6(金),⑦11/11(水)

お申込みはこちら：<https://forms.cloud.microsoft/r/DPieR6A4vT>



〈動物用医薬品販売店〉全3回

※各回すべて同じ内容ですので、
いずれかにご参加ください

①12/16(水),②1/27(水),③2/17(水)

お申込みはこちら：<https://forms.cloud.microsoft/r/Ri6pzejpXL>



詳細は別添リーフレットをご覧ください。

令和 8 年度 電子指示書システム操作講習会

無料

獣医師様

開催概要



日時：全7回開催 ※各回定員20名、各回同一内容
 ①10/1(木), ②10/7(水), ③10/23(金), ④10/28(水)
 ⑤11/18(水)
 ⑥12/9(水)
 ⑦2/10(水)

【全日程共通タイムスケジュール】

13:15 Teams会議（オンライン会議）開場
 13:30 講習会開始
 16:30 終了（質疑応答含む）



対象者：牛・豚・鶏の産業動物獣医師の方



実施形式：ハンズオン形式

- ・説明を聞きながら実際にシステムを操作する受講形式です
- ・ハンズオンなしの聴講のみでもご参加可能です



用意するもの：パソコン(推奨)

- ・タブレットでも参加可能ですが操作画面はPC版となります

講習内容

- ・電子指示書システムの概要
- ・アカウント取得/ログイン方法
- ・システム全般の基本的な使用方法
(指示書の作成方法など)
- ・集計機能など活用方法について

参加申込

※各回開催日の14日前または定員に達し次第〆切

ご参加希望の方は以下のMicrosoft formsより
お申込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/QRvdnacjdk>



お問い合わせ先

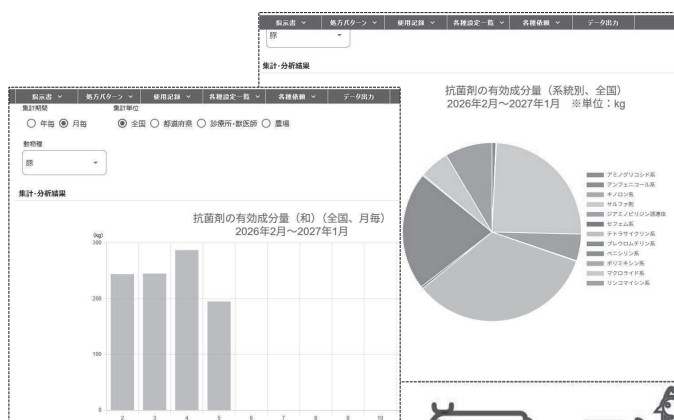
農林水産省
消費・安全局 畜水産安全管理課 薬剤耐性対策班
メール：denshishijisho_admin@maff.go.jp

電子指示書システムとは

獣医師が発行する要指示医薬品の指示書を電子化し、獣医師・生産者・販売店の間で行われる指示書の発行・受領、医薬品の販売・購入、使用記録の管理までをシステム上で一元的に実施できる仕組みです。なお、電子指示書システムは無料でご利用いただけます。

指示書作成画面

集計・分析画面



無料

令和8年度 電子指示書システム操作講習会

販売店様

開催概要



日時：全3回開催 ※各回定員20名、各回同一内容
①12/16(水)
②R9 1/27(水)、③2/17(水)

【全日程共通タイムスケジュール】
13:15 Teams会議（オンライン会議）開場
13:30 講習会開始
16:30 終了（質疑応答含む）



対象者：動物用医薬品販売店の方



実施形式：ハンズオン形式

- ・説明を聞きながら実際にシステムを操作する受講形式です
- ・ハンズオンなしの聴講のみでもご参加可能です



用意するもの：パソコン(推奨)

- ・タブレットでも参加可能ですが操作画面はPC版となります

講習内容

- ・電子指示書システムの概要
- ・アカウント取得/ログイン方法
- ・システム全般の基本的な使用方法
(指示書の確認、帳票など)

参加申込

※各回開催日の14日前または定員に達し次第〆切

ご参加希望の方は以下のMicrosoft formsより
お申込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/Ri6pzejpXL>



お問い合わせ先

農林水産省
消費・安全局 畜水産安全管理課 薬剤耐性対策班
メール：denschishijisho_admin@maff.go.jp

電子指示書システムとは

獣医師が発行する要指示医薬品の指示書を電子化し、獣医師・生産者・販売店の間で行われる指示書の発行・受領、医薬品の販売・購入、使用記録の管理までをシステム上で一元的に実施できる仕組みです。なお、電子指示書システムは無料でご利用いただけます。

指示書確認画面

MAFF
農林水産省

投薬業務

指示書一覧・検索

投薬販売店 001 販売
投薬販売店 001
shimooka_y@use-ebisu.c...

指示書
各種設定一覧
各種依頼
データ出力

ホーム > 指示書一覧・検索

検索条件を指定 (1件該当)

検索するキーワードを入力してください

☐	指示書ステータス	指示年月日	農場名	医薬品名	数量	動物種	診療所名	獣医師名
☐	生産者・販売店確認待ち	2025/01/22		チルコン注300 (農水)	10	肉用繁殖牛		

全1件の1~1件を表示中

MAFF
農林水産省

投薬業務

指示書確認

投薬販売店 001 販売
投薬販売店 001
shimooka_y@use-ebisu.c...

指示書
各種設定一覧
各種依頼
データ出力

ホーム > 指示書一覧・検索 > 指示書確認

基本情報1
基本情報2
処方情報1
処方情報2

指示書管理情報

指示書番号
指示書No.0123

指示書ステータス
販売店確認待ち

指示年月日
2025/02/04

管理番号
K00000602

対象動物の所有者及び管理者

所有者または管理者
☒ 所有者
☐ 管理者
☐ 指定しない

農場ID・農場名
N440101000001 投薬 0017アーム1

獣医師番号
8700001

郵便番号
大分県

市区町村
大分市

番地
新川2-13-4

戻る
戻る
承認


☆動物用医薬品副作用報告（令和8年7月）

(1/2)

産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10）

製品名	スタートバック	“京都微研”牛ヘモフィ ルスワクチン-C	エンテリコリックス	ポーシリスPCV
製造販売業者名	共立製薬株式会社	株式会社微生物化学研 究所	ベーリンガーインゲル ハイムアニマルヘルス ジャパン株式会社	MSD アニマルヘルス株 式会社
動物種	牛	牛	豚	豚
発現動物数／ 投与動物数	2 / 20	1 / 118	1 / 20	40 / 840
性	メス	オス	メス	不明
年齢	5～6歳	9ヵ月	1歳2ヵ月	推定50日
投与前の 健康状態	不明	普通	良好	不明
以前の使用歴	なし	不明	あり	なし
以前使用時の 副作用の有無	－	不明	あり	なし
投与量	1ドース	2mL	2mL	2mL
投与方法	筋肉内注射	筋肉内注射	筋肉内注射	筋肉内注射
投与日	R8.5.21	R8.6.12	R8.6.11	R8.6.8～6.12
副作用発現日	R8.5.25	R8.6.12	R8.6.11	R8.6.12
副作用の種類	流産、死産	呼吸促迫、起立不能	後肢運動失調、紅斑、 強膜充血、 散瞳、過流涎、失神	チアノーゼ、嘔吐、心 拍数増加、 呼吸困難、アナフィラ キシー、死亡
治療の有無	治療	無処置	不明	無処置
転帰	不明	死亡	回復	死亡（2）、不明（38）
担当獣医師に よる評価	因果関係は不明。	因果関係がある。	因果関係は不明。	因果関係は不明。
製造販売業者に よる評価	本事例では、20頭にスタートバックを接種したところ、4日後に2頭で死産・流産が認められた。本剤の使用上の注意では副反応として「妊娠牛では早産や流産・死産等を発現することがある」旨を注意喚起しているが、死産・流産には様々な要因が考えられ、本剤が直接的な原因となったかどうかは不明である。 当該2頭の牛はいずれも乾乳前であり、ワクチン接種の2日前に割蹄が実施されていた。2頭のうち1頭はワクチン接種翌日から異常の兆候を示し、後日の検査により子宮炎、腹膜炎および胸膜炎が認められ、割蹄のストレスにより以前から罹患していた疾患が悪化した可能性も考えられた。もう1頭については、子牛は子宮内死亡の状態で娩出されており詳細は不明である。いずれの事例においても、ワクチン接種以外のストレス要因（割蹄・搾乳）が影響した可能性はある。 今後も同様の症例情報の収集に努める。 過去にも同様の情報を収集しており、本剤の注射と時間的な関連性が認められ、他に考えられる要因もないため、因果関係があると考えられると判断する。 本件は、分娩前3週の妊娠豚20頭に本剤を投与したところ、そのうち1頭が投与後1分以内にアナフィラキシー反応を呈し、投与後10分程度で回復したものである。本剤投与から1分以内に症状が発現していること、およびアナフィラキシー反応は本剤の予想される副作用であることから、本症例は本剤投与に起因する反応であった可能性が高いと考えられる。 時間的関連性は妥当だと判断され、投与された薬剤も本製品のみであった。アナフィラキシーは、生物学的製剤の投与後に起こりうることから、当該豚にて認められた臨床徴候および死亡に関連した可能性がある。しかしながら、剖検は未実施であり、他の病因を除外できないため、発生した有害事象と本製品との因果関係はある可能性があると判断する。			

☆動物用医薬品副作用報告（令和8年7月）(2/2)
産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告
（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の
確保等に関する法律第68条の10）

製品名	エバロン
製造販売業者名	イブラ・ジャパン合同会社
動物種	鶏
発現動物数／ 投与動物数	183 / 4070
性	オス
年齢	23日
投与前の 健康状態	良好
以前の使用歴	あり
以前使用時の 副作用の有無	なし
投与量	1 ドース
投与方法	散霧
投与日	R8.3.25
副作用発現日	R8.4.16
副作用の種類	腸の病変（詳細不明）
治療の有無	治療 （エクテシン）
転帰	死亡
担当獣医師に よる評価	因果関係は不明。
製造販売業者に よる評価	抗コクシジウム作用のあるエクテシン(スルファモノメトシン水和物とオルメトプリムの合剤)を投与したところ翌日には死亡が認められなくなったことよりコクシジウムの感染が疑われる。圧死があったとの稟告があり、また、同日に同一ロットのエバロンを投与した鶏群では異常は認められていないことから、投与したエバロンと死亡の因果関係は低いと考えられる。今後も情報収集に努める。

通 信

8月31日に農林水産省の令和9年度概算要求が公表されました。省全体としては、「強く豊かな日本」投資枠も活用し、食料安全保障の強化等に向けて農林水産業の持続可能な成長を実現するための予算を構成する中、畜水産物の安定的な供給を確保する観点からは、家畜伝染病等への対応強化、獣医療提供の確保、飼料・動物用医薬品の安全性確保等に関する予算を計上しています。畜水産安全管理課では、引き続き、畜水産物のリスク管理措置を講ずるための予算を要求しており、関連予算としては、飼料や動物用医薬品の安全性確保に向けた科学データの収集分析、AMR対策に278百万円（前年比56百万円増）の内数、動物用医薬品等の開発や実用化の促進・安定供給の確保対策に324百万円（同241百万円増）、産業動物獣医師の確保や育成・遠隔診療の推進を含む獣医療提供体制整備に404百万円（同110百万円増）、水産防疫対策の推進に91百万円（同8百万円増）などを要求しています。いずれも重要な施策ですが、特に獣医療の診療困難地域の解消に向けた取組や豚熱マーカーワクチンの実用化促進のための予算を大きく要求しており、財務当局に課題の必要性や重要性を丁寧に説明し必要な予算を確保してまいりたいと思います。

毎週月曜日発行

家 畜 衛 生 週 報

編集・発行：農林水産省消費・安全局

畜水産安全管理課、動物衛生課

☎03(3502)8111 内線 4581

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1